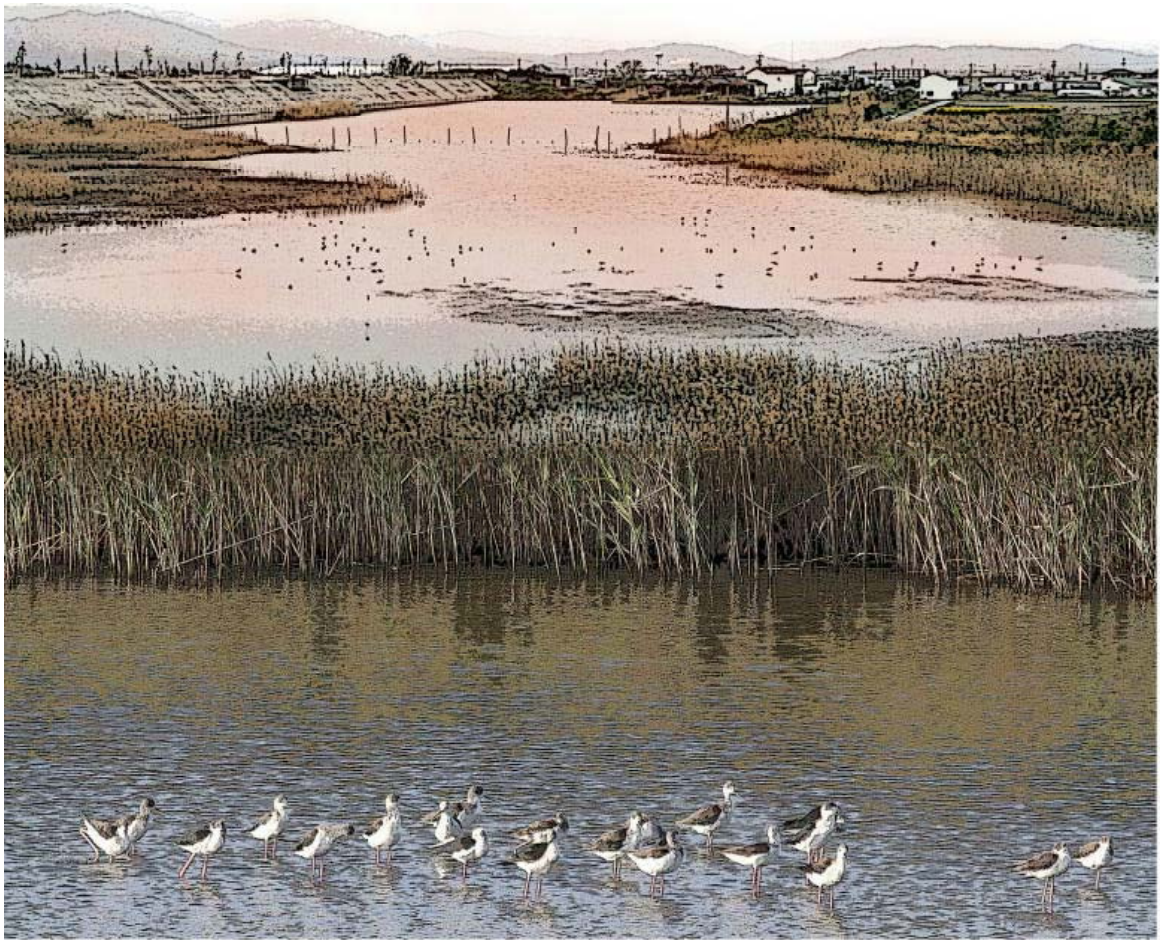


いなほ



第87号

2016年 3月 日本野鳥の会三重

<http://miebird.org/>

曾原大池のソーラーパネルを 見て思う。

津市 平井正志

2016年2月5日、曾原大池にはきちんとソーラーパネルが並べられてあった。残念ながら、セイタカシギもオオハシシギも見ることではできなかった。もう野鳥の棲む場所ではない。

曾原大池にソーラーパネルを設置する問題が起こり、野鳥の会三重は三重県知事宛にソーラーパネルにより、貴重な自然が破壊されないよう要望書を出した。しかし、ソーラーパネルについては既存の土地に関する法律、農地法などをクリアしておれば、何の縛りもなく、行政当局、市町村などへの届け出義務すらない。おまけに年の閣議決定で、建築基準法を外してあり、地権者が設置しようと思えばほぼその意図通りに設置できるようになっている。巨大な面積でなければ、むしろアセスメントも必要ない。三重県の反応は鈍いものであった。何も権限がないとのことで、有効な手を打てないし、規制しようという動きも鈍い。

もともと経済産業省が旗を降り、税制の優遇、高額な電気量買い取り価格でソーラーバブルを作った。これによって、消滅する自然について一顧だにした形跡はない。政策立案者は自然を破壊することに無頓着である。たとえひとつひとつは小面積であろうとも、積み重なれば深刻な事態を招く。藪で繁殖するウグイスやホオジロは大きな打撃を受けるであろう。三重でも葦原が狙い撃ちに会っており、チュウヒがそのあおりを食っている。更にあまり、調べられていないクイナ、ヒクイナ、オオヨシキリなども減るだろうが、記録には残らない。

本来このような土地利用を伴う、国家的事業は目標なり何なりを明らかにして、計画的になされるべきものである。自然破壊もさることながら、虫食い状に広がるソーラーパネルは将来の土地利用の足かせとなりかねない。パネルの設置は人家や工場の屋上など、自然回復の見込みのない場所を優先的に使うべきである。それでも足りないなら、国民的な合意の上に自然に手を付けるべきではないだろうか。

高度成長期の自然破壊を今また繰り返そうとしている。

===== 目 ===== 次 =====	
曾原大池のソーラーパネルを見て思う-----	2
ブッポウソウの飛来-----	3
ヒメウとの出会いとこの頃思うこと-----	4
鳥見という遊び-----	6
ボーボーの色トリドリ-----	6
シギ・チドリ類の年齢・季節による 羽衣の変化・オオハシシギ-----	9
どっから来たの？シロチドリ-----	12
事務局だより-----	13
鳥類繁殖分布調査について-----	14
野鳥記録-----	16
探鳥会報告-----	21
編集後記-----	24
=====	

表紙の言葉

小坂里香

曾原残照。
今や心の中にしか存在しない風景となりました。
たくさん水鳥たちが餌をついばんでいるところを、見ただけでよかった。
そんな贅沢はもはや許されません。
希望すら、経済の利害のもとに暴力と化す情けなさ。

欲望は限りなく、未来をむしばんでいく。
この画像を見ていると、懐かしさ、怒り、寂寥、後悔、絶望、罪悪感、無力感などが
いり混じったような複雑な感情が渦巻きます。
せめて、ここを追われた生き物たちが他所
に安住の地を見つけられますように。



イカル

ブッポウソウの飛来

四日市市 笹間俊秋

私が鳥の撮影を始めたのは、2012年の2月に北海道の道東へ旅行に行ったのがきっかけでした。それまでは、競馬場で写真を撮っていましたが、引退した競走馬を北海道の牧場まで行って撮影するようになり、その延長で北海道の自然や観光地を見て歩くようになっていました。北海道の各地をまわると必然的に冬の丹頂鶴も撮ってみようとなり、自分で観光ルートを組み立ててみると知床・羅臼から野付半島、根室の風連湖・春国岱、釧路・鶴居村へ行くこととなりました。実際現地を訪ねてみると自然が豊かで、鳥が多く探鳥されている方も多かったため、自然と野鳥観察に魅了されていきました。

2014年の秋には弥富野鳥園の探鳥会へ参加するようになり、本格的に地元でも探鳥するようになりました。それまでは観光地で丹頂鶴やオオワシなど有名な鳥をみるだけで、鳥の種類には疎く判別は実際いろいろな鳥の写真を撮影して覚えていく状況でした。

そこで、地元で探鳥するところは無いかと考えていたところ、自宅から手軽に行け自然が豊かで鳥の種類も豊富な三重県民の森へ通うようになりました。季節は6月の梅雨に入ろうかというころ、森ではホトトギスが多く繁殖期を向かえ木の上に止まり、大きな鳴き声を張り上げていました。そんな姿を写真に収めようと撮影に手ごろな枯れ木に鳥が止まっていないか注意して見て回るようになりました。

そして、6月10日13時ごろに県民の森へ探鳥に訪れたとき、西エリアの展望台広場から見える大きな枯れ木の上に2羽の鳥が止まっているのを確認しました。その日はよく晴れており逆光で種類までは特定できませんでした。しかも後ろ姿で黒かったため、カラスかもしれないとあまり期待せずに野鳥の森の入り口から前方へ回り込み確認をしにいきました。前方へ回り込む際、鳥を驚かせない様に茂みに隠れるように木の影から撮影してみると、黒っぽい羽でしたが、よく見るとうっすら緑がかった羽で嘴と足が赤色の鳥がいました。初見でしたが、これは珍しい鳥だと思い夢中で撮影しました。残念ながら広場で見たときは2羽でしたが、移動中に飛んでしまった様で1羽だけでした。この時は5分ぐらい木の上に止まっていたため、十分に撮影出来ました。しかし、撮影が一段落した時点で図鑑から種類を確認するとブッポウソウであることが分かりましたが確認中に

飛んでしまい飛翔シーンは撮り逃してしまいました。

ブッポウソウのことは以前、テレビやネット記事を読んで知っていましたが、実際近くで撮影できたのが信じられないぐらい有頂天でその場を離れましたが、まあ今後そうそう出会えるものではないだろうと思いながら他の鳥がいないか探鳥を再開しました。しばらく歩いた先の大きな枯れ木があるところに差し掛かると、先ほどのブッポウソウが止まっているのを再発見。早くも再撮影のチャンスがめぐってきました。その場所でも5分ほど止まってくれたため、じっくり撮影できました。しかし、急に大きな虫を発見したのか捕食しに飛び立ってしまい、飛翔シーンはまたも撮影できませんでした。その日はそれっきりブッポウソウに出会うことはなく探鳥を終えました。

帰宅して写真の整理をし、ブッポウソウをネットで検索してみると、2010年に県民の森で撮影されている方が何名かいて渡りの途中に休憩で立ち寄る場合があることが分かりました。そして、木の上から大型の昆虫を探して空中で捕食し元の木へ戻る習性あること、それを何度も繰り返す姿が見られると言う事でした。最初にブッポウソウを目撃した時は、また出会えることはそうそう無いだろうと考えていましたが、いろいろ調べていく内に渡りの途中でも数日は滞在することがあると分かったので、時間を見つけては再度出会えるかもしれないと希望を抱いて県民の森へ通うこととなりました。



あれから県民の森へ何度か出向いてみましたが、その後は姿を見ることもなく1週間がたちました。さすがに間が開きすぎたため、渡りの途中であれば繁殖地へ向かってしまったであろうことは容易に想像できます。ですが、6月17日14時ごろ、最初にブッポウソウを確認した枯れ木に、

ることができた。ヒメウを探して車を走らせていると、また見かけた。波に隠れると分からなくなるが見失った近くを丁寧に探すともた見つけられた。それから数日間は同じ場所で見続けることができたが、正月休みに合わせたかのように次の週末からは姿が見られなくなった。

このような出会いがあったので海鳥を見るのもなかなか面白いものだと思うようになってきた。当面、船に乗ってまでは考えていないが、堤防や海岸から海でもしっかり鳥を探そうという気になった。見た鳥の種類が増えそうで、鳥を見る楽しみが今まで以上に膨らんできた。その後も自分のフィールドを中心に、またたまには県外にも足を延ばしながら、毎週週末は鳥を見に出かけている日が続けている。

昨年末に再び以前の海岸に来てみた。風はあるし、少し波は高い。海面にヒメウはいないかと期待を抱きながら探していると、波間に小さく細い黒っぽい首の鳥が見つかった。ほぼ一年振りの再会である。以前と同様海岸と一定の距離をおいて泳いでいる。少し丁寧に観察すると、やはりカワウに比べ黒いというより焦げ茶色という感じで、首はより細く、正面から見ると頭はやや大きく丸く見える。嘴も細く、一層長く見える。今回のヒメウは顔の赤い部分は眼の先の一部のみで、眼の緑色は年明けに見た個体よりやや薄く、光の加減で薄茶にも見え、若い個体だろうか。波間に浮かんだり、時々羽繕いや羽ばたきをしている。そのうちに岸に沿って泳ぎさり見えなくなった。やや

たって水面を飛んでいく姿が見え、北の方に見えなくなった。一時間ぐらいの出会いだった。ヒメウで始まり、ヒメウで暮れた一年だった。

年が明けて今年も出会えないかと元旦早々同じ場所に来てみた。しばらく探したが二匹目のいや三匹目のドジョウにはならず、見つけられなかった。また訪れることにして、近くで群れていたミュビシギと県鳥で今年の撮り初めとすることにした。

昨年の秋からいつも出かける川沿いの堤防でよく見られたズグロカモメが見られず、年による違いか、訪れる時間の違いかわからないが、見られる鳥の違いがあり変化があって面白い。色々な所に行くのもわくわくするが、同じ場所での観察はやめられない。「マイフィールドを持つとよい」とよく言われるが、実感する。そのような変化が環境の悪化など人為的なものでないことを祈りながら、また見慣れた鳥がこれからもずっと出会え続けられることを期待して、これからもいつもの場所を中心に普通に見られる鳥を見続けていこうと思っている。一方たまには色々な所にも出かけ自分にとって珍しい鳥にも興味をもって観察して自然を味あわせていただこうと考えている。それにしても環境はどんどん変化してきている。安全のための環境保全は最優先であるが、できれば自然の状態が生きた環境も維持できればと考え、何か役立てることができればよいのだがと最近考えている。



ヒメウ：筆者撮影

鳥見という遊び

松阪市 松島雅之

北アメリカのネイティブ達の言い伝えの中にこんなのが有ります、遊びは『戦いの遊びと目まいの遊び』に分かれるのだそうです。言わずともお分かりのように戦いの遊びとはジャンケンから始まりオリンピック競技に至るまで、勝ち負けを競う遊びですね。それならば目まいの遊びとは？時として子供は体をグルグル・グルグルと回転させてボタンと倒れる、そして空がぐるぐる回る事を楽しむ、そんな行動をしますね。大人になるとなかなか理解し難い行動です。

私がバードウォッチングを始めたのは20年前、単身赴任で東京に引っ越し、お小遣いの無い生活から見つけ出した趣味は献血と村上春樹のノルウェーの森の主人公のように東京の街を（残念ですが一人で）あてもなく速足で歩く事、そして埼玉県で毎月行われる探鳥会に参加させてもらう事でした。

一口に『趣味が野鳥』といっても色々な楽しみ方をしている方がいると思います。写真を撮る人ライファー数を競ったりとか人との輪を広げたいと思う人、中には生態を詳しく調べる事をライフワークとしている方も見受けられます。

そんな中で私は鳥を見る事に何を求めたのか、一言で言ってしまうと心の中を空にする事でした。森の中を歩いていたり海岸線から沖を眺めて鳥を探す、そんな時の集中力はすごい力を持っていて昨日有った嫌なことも今晚の食事に何を食べるかも一切心の中から追い出す事が可能です。

社会の中で生きていれば毎日の業務遂行や目標値の達成等いろんな行動の中には必ず価値を求められます。野生生物においても全く同じで、一つひとつの行動は綿密に計算された『生命の維持・子孫繁栄』という目的意識の中で行われていると思われま。

しかし例外的にカラスの仲間に見られる行動で、立木の枝先を咥えてブランコのように揺れる・飛翔中のオジロワシに近づき尾羽を咥えて急ブレーキをかける等生物の目的意識からすれば全く価値を見出せない行動をする事が有ります。

そう私も野鳥との付き合いの中でワタリガラスのように社会的に何も価値を見出せない『目まいの遊び』をする事で心穏やかな生活を送りたいと思っています。

さて皆さんは鳥達とどんなお付き合いをされているのでしょうか？

===== 0000 =====

ボーボーの色トリドリ

津市 橋本富三

イヌの眼は青と黄色には反応するが、赤や緑に反応しないため、ほとんどモノトーンの世界で暮らしているようだ。そういわれれば全身ピンクの柴犬だの、緑の尻尾を持つワンコというのは見かけたことがない。イヌ同士のコミュニケーションであれば白、黒、茶色で十分なのだろう。

トリはどうか。その羽根の色はバラエティ豊かで多種多様、嘴や脚までが色とりどりに自己を主張し、種の保存をはかっている。オーストラリアにいるニワシドリ科のある種のオスに到っては、青い木の実や青い羽根、ひいては青色のプラスチックまで自分のテリトリーに集めてメスの気を引こうとする。トリは確かに色彩を感じることができるのだ。そして鳥と同じように多彩な色を感じることができるヒトもまた、彼らの色の美しさに惹かれ、魅了される。そこで思いつくままに色から見た、鳥への思いを綴ってみた。

『白い鳥』

白い鳥の種類は多いがこの地方でなじみのあるのは サギ類であろう。中でもコサギは留鳥で通年見られることもあり目につきやすい。冬枯れのアシの川原で見るコサギはなかなか風情があり、風にそよぐ背中の叢毛は白いレースのように美しい。

春になるとチュウサギが飛来し、大きさだけで見ると遠目には区別がつきにくいだめウオッチング初心者には特定が難しい。コサギは名前のとおり比較的小さい事、脚の趾（ゆび）が緑黄色であること、背中の叢毛の先端が上方に捲き上がっているなどで他のサギと区別がつく。チュウサギとダイサギはその大きさや嘴のきれ込み位置の違いで区別するが初心者には難しく、大きさが中と大の間だからチュウダイサギと安直な名前がついているサギにいたってはまったくお手上げとなる。

もうひとつの白い色の代表はハクチョウであろう。県内にも時々飛来するようだがあまり多くないので、奥琵琶湖まで観察に出かけることになる。ハクチョウはいつでも湖を優雅に泳いでいるもの

と勝手に思い込こみ、写真を撮ろうと勇んで出かけてはみたが、湖にはおらず、餌場の田んぼで尻をふりふり餌をついばんでいる姿は、優雅なイメージから程遠く、少なからずがっかりした覚えがある。近くにいた人の話では、昼間は田んぼ、夜間に琵琶湖へ戻るのが常のようであった。オオハクチョウとコハクチョウは大きさが異なるほか、オオハクチョウの方が、嘴の先端部の黒色が少なく口元側の黄色が多いことでコハクチョウと区別する。これはスコープで観察すれば容易に見分けられる。湖北野鳥センターの近くではコハクチョウが多いようだ。

『赤い鳥』

世界、特に熱帯地方に行けば赤い色の鳥は沢山いる。しかし日本でと云えば、バードウォッチャー憧れのアカショウビンと思う人は多いはずだ。私が初めてその姿を見たのは、鈴鹿山脈西側のあるお寺の境内であった。車を駐車位置止めたその時、アカショウビンの鳴声がとても近くから流れてきた。それまで何度もCDで聞いている独特の鳴声は聞き違えようも無い。驚きと興奮で周りの木立を見渡したその瞬間、目の前に緋色の光が飛び出し、あっという間に木立を縫ってその奥へ消えた。双眼鏡を構える暇も無い出来事であった。今にして思えば、蒸し暑い夏の昼下がりの幻想に思われる。それ以来遠くで鳴声を聞く機会は何度かあったが、その姿をいまだ見ていない。四国の四万十川周辺には、アカショウビンが比較的多いと聞く。澄み切った流れを横切って飛ぶその緋色の姿は、青い川面に映えてどんなに美しいのだろう。

『黄色い鳥』

探鳥を始めた頃、カモやチドリを見に海岸へよく出かけた。その頃は図鑑とにらめっこしながら、あの鳥がオナガガモ、遠くにいるのがホオジロガモと、どの鳥をみてもワクワクし、新鮮な驚きをもって新しい世界を楽しんでいた。

そんなある日、黄色い小鳥が数羽の群れで植物の種を食べている。はじめて見たそのレモン色は新鮮だった。とっさに珍鳥と思い図鑑を調べると、カワラヒワとわかった。なるほど川原にいるからカワラヒワかと納得したが、その後川原だけでなく公園や街中でも普通に見かけるようになった。それまで幾度となくこのスズメ大の小鳥を見ていたはずなのに、みんなスズメかつバメと誤ってすごして来たのかと思うと、興味が無ければ見えるものも見えないのだとカワラヒワから教えられた思いであった。

猛禽のオオワシを黄色い鳥とは誰も考えないと思うが、私にとってあの太く鋭い嘴の黄色はオオワシのパーツの中で最もよく目立つし、いかにも猛禽としてカッコいい色だと思う。湖北にある山本山の、オオワシは有名でよく見に行った。山の中腹の松の木にとまっているのをしばらく見ていると、腹が減ったのか、枝を蹴って飛び出し琵琶湖へ魚を捕りにいく。長さ2mを越す翼が私たちの頭上を通過するときは思わず見とれてしまう迫力である。その時、嘴との脚の趾の鮮やかな黄色が、とても目立って印象深かった事を昨日のように覚えている。最近『山本山のおばあちゃん』と言うあだ名までついていると聞く。初冬になると忘れずにやって来てくれる、あのおばあちゃんにまた会いに行こうか。



中の川、松阪

『青い鳥』

翡翠と書いてカワセミと読む。またヒスイと呼ばれる緑色の宝石も同じ翡翠である。翡翠の漢字のどちらにも羽が付いていることからカワセミの漢字がヒスイに転用されたようだ。どちらもその美しさで人を魅了することに変わりはない。以前は、清流の鳥で、バードウォッチャー大人気であったこの鳥も、昨今では街中の用水路のような場所でも見かけるようになり、その神秘性が少し薄れてきた感がある。餌となる小魚が増えてきたのか、彼らの好みが変化してきたのかわからないが結構なことではある。探鳥会でも相変わらずの人気で、この鳥が出ると参加者が喜びのリーダーは責任を果たしたようにホッとする。だがその美しさゆえに、にわかカメラマンが餌付けまでして、その姿を写真に収め自慢しあっている事もあると聞く。いかがなものであろうか。あまり騒がないで欲しいと思う。

清流での青い鳥がカワセミなら、高原の青い鳥はオオルリである。姿、鳴声の美しさから日本三名鳥と呼ばれ、谷間のせせらぎを縫って聞こえるその鳴声は初夏の風に乗って、すがすがしい気持ちにさせてくれる。しかし、その姿を見ようと梢の先を見上げて、逆光でシルエットしか見えず、青いはずの色が黒くつぶれてしまうのはなんとも残念である。

残暑の残る9月のある日、知合いが死んだオオルリのオスを持ってきた。街中にあるビルの北側に落ちていたと言った。南へ渡る途中、透明な窓ガラスにぶつかったのだろう。一見傷も無く、静かに眠っているかのようにみえた。意外だったのは、次列風切羽を広げると青い色はほんの一部で、大部分は黒い色をしていることだ。羽を折りたたんだときに、その青い部分だけが表面に現れるようになっている。剥製にしようかとも考えたが、南の地へ帰ることができなかった無念さを弔うため土に還してあげることにした。

『黒い鳥』

黒い鳥と聞いてすぐに思い浮かぶのはハシボトガラスやハシボソガラスである。少年の頃、カラスの巣から卵やヒナを採ろうと木に登って、親カラスにイヤというほどつつかれた体験をお持ちの男性諸氏も多いのではないだろうか。

私が勤務するビルの屋上に電気設備があり、毎日点検や記録をする業務がある。ビルの周りは公園でその樹木にハシボソガラスの巣があるようで、それはビルから見下ろす位置となるようだ。いつものように点検をしていると後ろからバサバサという羽音とともに親ガラスが頭上をかすめ

て、威嚇してきた。次の日からも同じような威嚇がしばらく続いた。一羽のカラスであっても、ヒッチコックの古い映画『鳥』を思い出させる恐怖を感じる。その後対抗策として、後ろから威嚇されないようにして傘をさして点検をするようにしてからは、明確な威嚇こそないものの近くでガーガーと警戒の鳴声を聞いていると、やっぱり気味が悪い。インターネットで生態を調べてみると、親カラスにとってヒナのいる巣を上から覗かれるのを最も嫌がるようで、こちらは巣を覗いた記憶は無いが、カラスにとってみればそのように見えたのだろう。しかし濡れ衣というものだ。しばらくして公園の管理者が樹木の剪定をしてからは、カラスの威嚇は無くなった。巣が枝ごと切り落とされたのかもしれない。

同じ黒い鳥でもコクガンは可愛い。首の白いネックレスがなんとも愛らしいし、嘴の先が丸いのも平和主義者を標榜している。その上、絶滅危惧Ⅱ種、国指定天然記念物の肩書きを持つ恐れ多い鳥でもある。野鳥の会の深みにはまってしまったのもこの鳥に愛着を持ったのがきっかけだった。毎年10月になると数羽が津市の海岸に飛来し、眼を楽しませてくれる。だが過去、この海岸で無謀なハンターにより、故なくしてその命を奪われたコクガンの悲劇を忘れてはなるまい。

最後にハシボソガラスに対する偏見だと非難されようと、会員にあるまじき暴言として野鳥の会を除名になろうとも、声を大にして言いたい。

「コクガンは大好きだがハシボソガラスは大嫌いだー。」



ヤブニッケイ

シギ・チドリ類の年齢・季節による 羽衣の変化 —連載第3回 オオハシシギ—

津市 今井光昌

オオハシシギは北東シベリアとアラスカの一部で繁殖し、主に北アメリカ西海岸からメキシコ湾に渡り越冬します。日本には旅鳥・冬鳥として渡来しますが数は多くありません。これまで三重県では春秋の渡りはなく、冬鳥として10月下旬から11月に渡来してきます。4月から5月初旬にオオハシシギを見ることはあってもそれらは越冬していた個体で、晩秋にごく少数の幼鳥や成鳥が三重県の湿地に訪れ4月下旬頃まで滞在することが多い。淡水の池、水田、海沿いの干潟などで見られます。砂質の強い干潟や開けた干潟、砂浜に入ることはありません。オオハシシギが三重県で越冬するようになったのは2006年が初めてでした。その後1～3羽の越冬が毎年見られるようになり、2015年には松阪市曾原町の大池でこれまでで最大数の5羽が越冬しました。



図1 幼羽 2007.11.03



図2 第1回冬羽 2010.01.03



図3 成鳥冬羽 2015.12.15



図4 成鳥夏羽 2015.05.01

オオハシシギの羽衣の変化

長くて真っ直ぐな嘴を泥の中に垂直に突っ込み餌を捕ります。餌の捕り方はタシギに似ていますが、タシギとは羽模様が明らかに異なります。オオハシシギは幼羽、冬羽、夏羽の羽模様の違いが分かり易い。只、夏羽は年齢に関係なく上面も下面の大部分も夏羽に換羽するので、第1回夏羽と成鳥夏羽の羽衣は酷似し識別は困難です。



図5 幼鳥 2007.11.03

画像の幼鳥は11月3日にも拘わらずまだ冬羽が出ていません。幼鳥の背・肩羽は軸斑が黒褐色で羽縁が橙褐色。上面各羽の羽先は尖り気味です。冬羽は灰褐色で羽縁は白く羽先に丸味があります。



図7 第1回冬羽に換羽中 2009.12.15

肩羽に黒褐色の幼羽が一部残りますが、第1回冬羽への換羽が進み、小・中雨覆も冬羽に換羽しています。この後、図8の羽衣に進んでいきます。



図6 第1回冬羽に換羽中 2008.11.08

第1回冬羽の換羽初期の羽衣です。肩羽の黒褐色の幼羽の間から丸味のある灰褐色の冬羽が数枚出ています。幼鳥には通常三列風切に模様がありませんが、稀にこの個体のように模様がある個体もいます。



図8 第1回冬羽 2010.02.02

図7よりさらに換羽が進み、完成された第1回冬羽の羽衣と言えます。肩羽下列に黒褐色の幼羽が数枚残っていることから第1回冬羽個体と分かります。

右図

図9 第1回夏羽に換羽中 2011.03.29

肩羽・三列風切に黒褐色で橙褐色の斑や白い羽縁のある夏羽が出てきた換羽中の羽衣です。この換羽段階になると冬羽の伸長もあり、黒褐色の幼羽を探すことが難しくなり、成鳥と若鳥の識別が困難になってきます。





図 10 第 1 回夏羽に換羽中 2011.04.05

図 9 より 7 日後の羽衣です。肩羽・三列風切だけでなく雨覆にも夏羽が出てきており、下面にも淡橙色の羽が出ています。換羽が進んでいるのが分かります。



図 12 成鳥冬羽 2013.12.02

冬羽は体上面が一様な灰褐色で下面は白い。頸から胸に褐色斑、脇から下尾筒に灰褐色の斑があります。



図 11 第 1 回夏羽 2008.04.29

第 1 回夏羽完了の羽衣です。オオハシシギは成鳥も若鳥も上・下面のほとんどが夏羽に換羽するので成鳥夏羽と第 1 回夏羽の識別は困難です。画像の個体は幼羽が残る時から観察を続けていたので問題なく第 1 回夏羽と言えます。



図 13 成鳥夏羽に換羽中 2014.04.10

夏羽の上面は黒い軸斑に赤褐色の横斑模様と白い羽縁があります。夏羽が進むと下面も淡い赤褐色になります。第 1 回夏羽に換羽中の羽衣と酷似しますが、画像の個体は冬羽時から継続観察していたので換羽中の成鳥と識別できています。

右図

図 14 成鳥夏羽 2014.04.14

画像は図 13 の 4 日後の羽衣ですが、夏羽への換羽が急速に進行しています。体全体の赤褐色味が強くなっています。4 月はオオハシシギの羽衣の変化が最も楽しめる時期です。



事務局だより

活動の記録 (2015年11月～2016年2月)

2015年

- 11/7~8 平成27年度連携団体全国総会へ参加
- 11/16 県会議員・松阪市議員と面談
- 11/28~29 第23回中部ブック会議2015福井へ参加
- 12/ 会報・第86号しろちどり発行・発送作業
- 12/6 第3回理事会
- 12/15 五主曾原大池池問題 県へ申し入れ (代表・副代表)
- 12/19 ミヤコドリ・カウント (有志)
- 12/20 南勢地区会
- 12/22 松阪市議らと現地視察 (松阪市)
- 12/30 鳥類繁殖分布調査についての話し合い第1回

2016年

- 1/10 平成27年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査 (県委託)
- 2/8 鳥類繁殖分布調査についての話し合い第2回
- 2/8 平成27年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策連絡協議会へ出席 (代表)
- 2/15 ミヤコドリ・カウント (有志)

理事会報告

第3回 (2015年12月6日) 安濃町中央公民館 出席者10人

協議事項

○ソーラーパネル問題

要望書検討 県に提出＝同時に記者発表
松坂市、津市にソーラーパネル及びラムサール申し入れをする

○鳥類繁殖調査

5万分の1の地形図に2コース (ラインセンサス) を調査する。
ルートセンサスと定点
当会として参加、結果を独自に発表する。2年程度を予定。
調査費を2回程度、ただし当会旅費規定の額よりも低く抑える。

○リーダー研修

本部より安西氏招聘
3月19日 20日 希望荘 あるいは宿泊ウエルネスホテル
19日は午後からまた20日は座学+県民の森 昼から一般参加とする。
荒天の時 の対応を検討する。



矢口浦

- 宿泊探鳥会 石川県普正寺の森 5月14(土)～15日(日)
- ホームページ問題
- 守りたい場所のリストアップ
 - ホームページ上で集計する。最初は場所だけを登録、最終的には地権者まで調べる必要がある。リストは随時まとめる。
 - 理事にはアカウントを持ってもらう
 - ・探鳥会後に、フォーラムの探鳥情報のところにレポートを投稿してほしい。
 - ・重要な場所のリストのフォームについて
 - ・ガンカモ調査のHP利用について 一般の方の参加はペンディング
- 鳥類データのまとめ
 - 未公表データについての扱いについて議論した。
- 木曾岬要望書 準備する。

報告事項

- 中部ブロック会議報告 ブロック分割案否決 普正寺の森掘削問題
- 本部連携団体総会 会員減少 京都の取り組み など
- 博物館との共催探鳥会 2回を予定
 - ・博物館周辺 冬 12月 ・安濃川河口 冬 3月
 - それ以外にも剥製を見る会をやりたい。

=====
今年の繁殖期から始まる鳥類繁殖分布調査について

津市 平井正志

日本野鳥の会三重は全国規模で行われる鳥類繁殖分布調査に参加し調査を 2016 年から始めます。調査期間は 2016 年から 2120 年です。調査員を募集しています。調査に参加したい方は「調査まとめ役」あるいは事務局まで、連絡ください。識別にやや自信の無い方でもベテランと同行することで調査に参加でき、トレーニングを積むことができます。奮って参加ください。参加希望者は直接バードリサーチへ申し込んでいただいても結構ですが、「調査まとめ役」にもご一報ください。調査ルートの振分けなどは当会とバードリサーチが協力して行います。また、当会窓口へ登録された方には既存のルートセンサスだけでなく、当会独自の繁殖調査にも参加していただきます。今回の調査で新しい発見があることを期待しています。

この調査のまとめ役は、平井正志、西村四郎、近藤義孝、三曾田明の4名が担当します。

———調査に参加される会員の皆様へ———

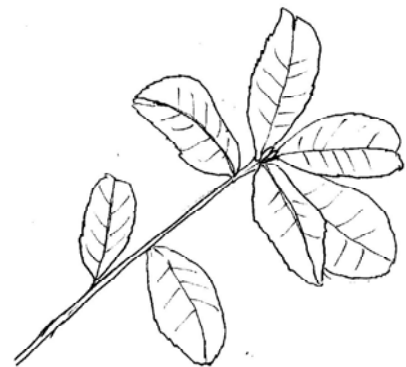
環境省はこれまで 1970 年代と 1990 年代に鳥類繁殖調査を行いました。現在、調査すべき時期になっていきます。しかし、今回は予算がつかず、環境省による調査ができない状態です。そこで、野鳥の会やバードリサーチが全国の鳥仲間によびかけ、独自に繁殖調査を行おうとしています。

<http://www.bird-atlas.jp/>

当会、日本野鳥の会三重もこれに参加し、県内を調査することにしました。

この調査では最終的に日本全土をメッシュに区切り、その各メッシュの中で繁殖している鳥を明らかにすることです。1メッシュは国土地理院の 1/50,000 地形図の 1 枚に相当します(地図は添付してあります)。

そのためにまず(1)ルートセンサスを行います。このルートは以前の環境省の調査で使われたもので、このルートを前回と同じように調査することで、経時的な繁殖鳥の変化を明らかにすることができます。



ウバメガシ

このルートは1メッシュあたり、2ルート程度ですので、繁殖している鳥類を観察できないことも当然あります。

そこでさらに当会では**(2) 独自調査**を計画します。これはルートセンサスでカバーできない環境を選んで、ルートあるいは定点を定め、調査するものです。平地や丘陵地のルートの他、鈴鹿山脈の主脈上、離島などがあるでしょう。

また、これ以外にも会員調査員が探鳥会や個人で探鳥にでかけた時、あるいは偶然に繁殖を目にした時はそれを記録し、報告してもらいます。これを**(3) 随時調査**とします。

これらの3種類の調査結果を重ね合わせて、三重県内各メッシュ内で繁殖する鳥の種類を明らかにし、県内の繁殖分布地図を作成したいと考えています。

1) ルートセンサス：

環境省により、決められたルートです。三重県のルートは34ルートあります。

希望者にはルート図など詳細を配布できます。

ベテラン会員には調査をお願いすることになります。また、調査希望の方は当会窓口までご連絡ください。登山道などは2名以上で調査してください。

バードリサーチからのマニュアル、報告用紙に従って調査してください。

交通費などはバードリサーチからある程度の補助が出る予定ですが、額は未定です。

2) 独自（ルートまたは定点）調査

当会で独自に計画するものです。計画は会員と相談し、決めます。山道、登山道、自然歩道などの場合は2名以上で調査します。

山登りができる人が対象のルートもあります。

以下は現在想定できるルートです。

員弁川、鈴鹿山脈北部（竜ヶ岳以北）、鈴鹿山脈中部（御在所岳付近）、養老山地、三峰山—高見山

3) 随時調査

あらかじめ、日時、場所などは決めません。繁殖している鳥を見つけた時に記録してください。これにより、ルートセンサスや独自調査で記録できなかった繁殖鳥を記録します。記録用紙は後ほど作成します。

場所の特定についてはGPS付きのスマホをお持ちの方はGPS機能をオンにして写真を撮り、それを送付していただければ、こちらで、位置情報を把握します。報告様式、報告サイトをホームページ上に作成する予定です。



島勝浦 船越より大島を望む

野鳥記録 (2015年10月30日から2016年01月31日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察月日	観察場所(三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者 名	脚注
クロジ	1	2015年10月26日	いなべ市北勢町	雄 成長	山神 勝治	1
カシラダカ	約10	2015年10月31日	北勢中央公園	今期初認	三曾田 明	
アオジ	1	2015年10月31日	北勢中央公園	今期初認	三曾田 明	
シメ	10程	2015年11月7日	北勢中央公園	今期初認	三曾田 明	
ビンズイ	1	2015年11月7日	北勢中央公園	今期初認	三曾田 明	
アカゲラ	1	2015年11月7日	北勢中央公園	雌(頭が黒)	三曾田 明	2
ツグミ	2~3	2015年11月15日	北勢中央公園	今期初認	三曾田 明	
ナベヅル	2	2015年11月7日	五主海岸近くの休耕田	不明	仲谷 渉	3
ナベヅル	2	2015年11月7日	櫛田川左岸河口付近		松島 雅之	4
ナベヅル	8	2015年11月15日	紀宝町高岡		清水 勝海	5
ナベヅル	8	2015年11月15日	御浜町市木水田	成鳥	中井 節二	6
ナベヅル	7	2015年11月16日	松阪市西肥留町	幼鳥3. 成鳥4	今井 光昌	7
ナベヅル	2	2015年11月17日	伊勢市 宮川河口		世古口 有司	8
ナベヅル	2	2015年11月21日	伊勢市一色町鶴松新田	成鳥2	世古口 有司	9
ナベヅル	1	2015年11月21日	松阪市五主		仲谷 渉	10
ツメナガセキレイ	1	2015年9月18日	御浜町市木水田	幼鳥	中井 節二	11
カラムクドリ	1	2015年9月18日	御浜町市木電線	雄	中井 節二	12
クロハラアジサシ	2	2015年9月27日	御浜町志原水田	成鳥2羽	中井 節二	13
アカマシコ	1	2015年10月11日	御浜町市木		中井 節二	14
マミジロタヒバリ	1	2015年10月25日	御浜町市木水田		中井 節二	15
コホオアカ	1	2015年10月26日	御浜町志原		中井 節二	16
コクマルガラス	1	2015年11月1日	御浜町市木水田		中井 節二	17
カラス(白変種)	1	2015年11月16日	菟野町千種の田畑		笹間 俊秋	18
チョウゲンボウ	1	2015年9月13日	御浜町下市木	雌 成鳥今期初認	清水 勝海	
アカガシラサギ	1	2015年9月26日	御浜町下市木 水田		清水 勝海	19
ツグミ	1	2015年11月16日	南牟婁郡御浜町下市木	今期初認	清水 勝海	
ホシムクドリ	1	2015年11月8日	南牟婁郡御浜町市木電線		中井 節二	20
オオマシコ	3	2015年11月17日	いなべ市北勢町	雄1羽と雌2羽	山神 勝治	21
亜種ハチジョウツグミ	1	2015年3月23日	御浜町志原水田		中井 節二	
トモエガモ	6	2015年12月5日	いなべ市大安町両ヶ池	雄3雌3今期初認	近藤 義孝	
トラフズク	1	2015年11月27日	鈴鹿市寺家町		金丸 幸吉	22
コクガン	7	2015年12月20日	雲出川河口	成鳥	西村 四郎	23
ツクシガモ	4	2015年12月20日	松阪市大池(北)		西村 四郎	24
カワアイサ	1	2015年12月20日	松阪市丹生寺町・阪内川	雄幼鳥?	前田 聡	25
ニューナイスズメ	1	2015年11月2日	紀宝町平尾井	雌冬羽	中井 節二	26
ホシムクドリ	1	2015年11月8日	御浜町市木		中井 節二	27
ハイイロチュウヒ	1	2015年12月4日	御浜町志原	雄成鳥	中井 節二	28
ギンムクドリ	1	2015年12月16日	御浜町神山	雄	中井 節二	29
オオコノハズク	1	2015年12月16日	御浜町引作		中井 節二	30
ギンムクドリ	5	2015年12月27日	熊野市久生屋町	雄3羽 雌2羽	中井 節二	31
イカル	約20	2015年12月25日	菟野町三滝川	白化個体1羽	矢田 栄史	32
ミンサザイ	3	2015年12月14日	菟野町三重県民の森	不明	矢田 栄史	33
ウミアイサ	4	2016年1月2日	四日市市高松海岸	雌	伊藤 敏和	34
アオゲラ	1	2016年1月4日	北勢中央公園		三曾田 明	35
ユキホオジロ	1	2016年1月10日	四日市市塩浜	不明	伊藤 敏和	36
トラツグミ	1	2016年1月11日	垂坂公園		今西 純一	37
ホシムクドリ	1	2016年1月7日	御浜町志原新造平		中井 節二	38
クイナ	1	2016年1月14日	菟野町三重県民の森	不明	矢田 栄史	39
アメリカコガモ	1	2016年1月6日	鈴鹿川河口	雄生殖羽	阿部 裕	40
アカエリカイツブリ	1	2016年1月6日	鈴鹿川派川河口の沖		阿部 裕	
チュウヒ	1	2016年1月6日	鈴鹿川河口		阿部 裕	41
ウミウ	1	2016年1月23日	鈴鹿川河口付近	性不明若い個体	阿部 裕	42
オオジュリン	3	2016年1月26日	菟野町三滝川		矢田 栄史	43
ベニマシコ	5	2016年1月28日	菟野町三滝川	雄1雌4	矢田 栄史	44
ウグイス	1	2016年1月28日	菟野町三滝川	雄	矢田 栄史	45
コイカル	1	2016年1月23日	いなべ市大安町両ヶ池	雄 成鳥	安藤 宣朗	46
ハイイロチュウヒ	1	2016年1月31日	四日市市楠町南五味塚	雄	阿部 裕	47

今冬は、中勢・南勢に多くのナベヅルが飛来した事とユキホオジロ・コイカル・コホオアカなど珍しい野鳥を記録した。

注：

- 1 道路に溜まった水を飲んでいました
- 2 この公園では初めての観察および撮影
- 3 主に採餌をしていました
- 4 地元の人が見つけたその後五主町や東黒部町の田んぼへ移動 11/14 ころ終認 本件 FAX (田中洋子氏)にて投稿
- 5 久しぶりの観察です
- 6 紀宝町に移動後 16 日午前 10 時ごろまで居て、北のほうに飛んでいきました
- 7 松阪市西肥留町に 7 羽、同じ日に東黒部町で 2 羽見られていることから、計 9 羽が松阪市に飛来していたことになる
- 8 大洲にいた、宮川河口でナベヅルを見るのは初めて
- 9 最初宮川河口の大洲にいましたが南東方向へ飛んでいくのを見たので、推察した鶴松新田で再会しました
- 10 今月 16 日に 7 羽入ったとの情報受け行ってみたところいきなり 1 羽に遭遇
- 11 水田で見ていると 2 分位で飛んでいきました
- 12 ムクドリの群れに、1 羽だけ居ました
- 13 1 羽夏羽から冬羽に移行中でもう 1 羽は、冬羽だった
- 14 胸に縦班があり嘴も短い、図鑑で見るとアカマシコの幼鳥に似ていた
- 15 水田で耕しているところにも降りていた
- 16 耳羽囲む線が、黒かった、ホオアカよりも小さかった
- 17 知り合いが、ミヤマガラスも 2 羽確認していました
- 18 嘴と翼の先端が少し黒い部分があり、目の色が黒色だったため、アルビノではなく、白変種だと思います
- 19 この時期での観察は珍しいです
- 20 11 月 17 日熊野市有馬町でも、1 羽確認しています
- 21 ベニマシコより赤っぽい、地元で見られてびっくりです
- 22 10 日間ほどでいなくなりました
- 23 5 羽が活動中で (写真)、2 羽が中州で寝ていました
- 24 ずっと水面に顔をつけて、何か餌をとっているみたいでした、いつもと違って警戒心が薄かったです
- 25 群れでの行動が多いのに、1 羽 (ホシハジロやキンクロ等と一緒に) のみで、この地域での観察は初見であった
- 26 カワラヒワとアトリの中に 1 羽いた
- 27 それ以来御浜町志原、熊野市有馬町、熊野市久生屋町などで見られている
- 28 当地では雄の飛来は、初めてである、12 月 8 日以来誰も見ていません
- 29 ホシムクドリは、どこかで越冬しているかもしれません、ギンムクドリも可能性があります
- 30 車にひかれて、死んでいた
- 31 ムクドリと、ギンムクドリ、ホシムクドリ 3 種居ました
- 32 群れが高い木にとまった、よく見るとほとんど全身が白い個体が 1 羽いた
- 33 冬季、この森でミソサザイは観察歴 25 年目で初
- 34 高松海岸でウミアイサを見たのは初めてです
- 35 今季はアカとアオの両方の生息が確認できました
- 36 三重県では初認でしょうか?・・・日本野鳥の会三重の目録では、初めてです
- 37 身体を上下にゆらしながら採餌していました
- 38 今年になってはじめてみました、越冬したみたいです
- 39 水深がごく浅い細い流れにいた、初目撃
- 40 この日は左岸で休息していたが、右岸で見られる日もある
- 41 四日市市三田町の東端付近の草原を飛ぶ様子を鈴鹿川河口右岸から観察、ここ数年毎年観察してい

る

- 42 鈴鹿川河口と磯津漁港の間のテトラポッド上で休息していた、県北部では比較的珍しい
- 43 前日の雪がのこる川、ヨシ原でメジロ 20羽ほどが採食、オオジュリンもいた
- 44 今朝はヤナギの芽をさかんに食べていた
- 45 もしかしてモズか？と見るとヤナギの枝にとまっている、まだまだ上手とはいえないが早くもさえずっていた
- 46 両ヶ池探鳥会で湖畔に 20羽ほどのイカルが舞い降り、その中に風切りの羽先が白い1羽のコイカルがいた
- 47 記録報告者の両親が観察・撮影、海岸付近を飛翔していた



ナベヅル 今井光昌



アカマシコ 中井節二



クロハラアジサシ 中井節二



مامジロタヒバリ 中井節二



コクマルガラス 中井節二



アカガシラサギ 清水勝海



コホオアカ 中井節二



オオマシコ 山神勝治



カラス（白変種） 笹間俊秋



亜種ハチジョウツグミ 中井節二



ギンムクドリ 中井節二



アカエリカイツブリ 阿部 裕



ユキホオジロ 伊藤敏和



イカル 白化個体 矢田栄史



クイナ 矢田栄史



ウミウ 阿部 裕

コイカル (右図) 安藤宣朗





ナベヅル 仲谷 渉



ハイイロチュウヒ 阿部 裕



コクガン 西村四郎



トラツグミ 今西純一

////////////////////////////////////

探鳥会報告 (2015 年 11 月～2016 年 1 月)

● 中村川探鳥会

2015 年 11 月 8 日 (日) 9:30～11:00

松阪市嬉野一志町 中村川中流域

小野新子 竹川華子 参加者 6 名 (会員 5 名)
カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計 24 種

小雨降る生憎の天気だったが、何名か集まって頂いたので決行した。

河原の茂みのあちこちで小鳥の気配はするが、なかなか上に出て来てくれない。それでもホオジロやアオジ、ジョウビタキが姿を見せてくれたので良かった。河原ではイカルチドリやセキレイの姿は目につくが、オジロトウネンの姿は今年も見られなかった。

● 香良洲海岸探鳥会

2015 年 11 月 14 日 (土) 開催予定でしたが、風雨が強かったため中止しました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015 年 11 月 22 日 (日) 9:00～12:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者 2 名 (会員 1 3 名)
キジ(2)、オカヨシガモ(26)、マガモ(20)、カルガモ(17)、ハシビロガモ(60)、コガモ(43)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(3)、カイツブリ(9)、カンムリカイツブリ(1)、キジバト(5)、カワウ(7000)、アオサギ(5)、ダイサギ(2)、オオバン(15)、クサシギ(1)、イソシギ(4)、ミサゴ(5)、チュウヒ(2)、ハイタカ(2)、ノスリ(2)、チョウゲンボウ(1)、コチョウゲンボウ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(6)、ハシボソガラス(90)、ハシブトガラス(15)、ヒバリ(2)、ヒヨドリ(10)、ウグイス(1)、メジロ(2)、ムクドリ(100)、ツグミ(10)、ジョウビタキ(4)、スズメ(40)、ハクセキレイ(15)、セグロセキレイ(4)、

タヒバリ(5)、カワラヒワ(3)、ホオジロ(3)、アオジ(1)、カワラバト(100) 計42種

冬目前にもかかわらず、比較的暖かい探鳥会にはもってこいの陽気でした。

鍋田・木曾岬干拓地には、猛禽類がたくさんやってきていて、楽しく観察できました。今年生まれたチュウヒも観察できました。

● 海蔵川探鳥会

2015年11月23日(月・祝) 9:45～11:45
四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者13名(会員11名)

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、ハイタカ、オオタカ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラバト 計27種

前回9月が雨で中止になったので5月の探鳥会以来半年ぶりの開催になりました。

開始早々にカワセミが2羽みなさんの前に綺麗な姿を見せてくれて幸先の良いスタートになりました。その後はセキレイなどがポツポツ姿を現すだけでこのまま低調に終わってしまうのかなって思っていたら、エナガの群れが桜並木で一生懸命お食事しているところに遭遇しました。双眼鏡を使わなくてもすぐ近くで観察する事が出来、みなさん大喜びでした。その後ハイタカの幼鳥がカラスに追われて近くの木に止まっている姿も見ることが出来ました。

午後から雨模様という天気予報で心配しましたが、初冬の空気の中無事解散となりました。

● ベルファーム探鳥会

2015年12月6日(日) 9:30～11:30

松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム
谷口ひろ子 中村洋子 参加者27名(会員21名)

マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、バン、オオバン、イソシギ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ 計29種

穏やかな暖かい日に恵まれて27名の参加者、子供さんも参加していただきました。

今年も又美しい鳥カワセミが姿を見せてくれました。畑では耕運機の後をハクセキレイ、ムクド

リ、ツグミ、タヒバリ等が餌を求めて続けていました。

● 員弁川探鳥会

2015年12月13日(日) 9:00～12:00

いなべ市員弁町 員弁川周辺

近藤義孝 参加者18名(会員5名)

カルガモ、カワアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、クイナ、ケリ、トビ、ハイタカ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラバト 計29種

冬とは思えない暖かい日でした。

クイナが川の茂みから出てきてくれました。ハイタカやノスリもゆっくり観察できました。

この探鳥会は、いなべ総合学園高校の学びのプラザとして、いなべ市の広報でも宣伝してもらっています。

● 横山池探鳥会

2015年12月20日(日) 10:00～11:30

津市芸濃町 横山池・安濃ダム

落合 修 平井正志 参加者18名(会員15名)

オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、オオタカ、タカ(不明)、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ベニマシコ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、コブハクチョウ 計31種

暖かく晴れた冬の日、横山池では目当てのミコアイサ、ベニマシコを観察できました。

場所を安濃ダムに移し、そこでは遠くにいるオシドリを観察できました。最初ゴミが浮いていると思われたのが、何とコブハクチョウでした。おそらく、どこかで抜け出して来たものと思われます。クマタカの出現に期待しましたが、終了間際上空に現れたタカは、判別に至りませんでした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015年12月27日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者37名(会員11名)
キジ(1)、オカヨシガモ(15)、ヒドリガモ(2)、マ

ガモ(15)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(29)、コガモ(56)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(2)、カイツブリ(4)、カンムリカイツブリ(2)、キジバト(3)、カワウ(50)、アオサギ(6)、ナベヅル(11)、オオバン(7)、タケリ(50)、イカルチドリ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ユリカモメ(1)、ミサゴ(9)、トビ(1)、チュウヒ(3)、ハイタカ(1)、ノスリ(3)、チョウゲンボウ(1)、モズ(3)、ハシボソガラス(200)、ハシブトガラス(70)、ヒバリ(8)、ヒヨドリ(5)、メジロ(1)、ムクドリ(191)、ツグミ(9)、ジョウビタキ(2)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(23)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(6)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(2)、カワラヒワ(8)、ベニマシコ(2)、ホオジロ(5)、アオジ(1)、オオジュリン(2)、カワラバト(100) 計48種

比較的寒い朝にもかかわらずたくさんの方に参加してもらいました。

チュウヒやミサゴ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウなどの猛禽類以外に、この探鳥会ではあまりでないイソヒヨドリやイカルチドリ、そしてナベヅルも観察できました。

48種も観察することができて、大満足でした。

● 上野森林公園探鳥会

2016年1月16日(土) 10:00～12:00

伊賀市下友生 上野森林公園

共催団体/上野森林公園・県環境学習情報センター

前澤昭彦 木村京子 参加者27名(会員6名)

オカヨシガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計18種

里山の冬の小鳥類は十分に観察できなかったが、四十九新池でカモ類6種類をゆっくりと観察することができた。特に、ミコアイサの♂を見られたのはよかった。



イノモトソウ

● 銚子川周辺探鳥会

2016年1月17日(日) 9:00～12:00

北牟婁郡紀北町海山区 銚子川

中井節二 参加者7名(会員7名)

キジ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、アオジ、カワラバト 計33種

思っていたより鳥種が多かったです。少し寒かったが、晴れていたため鳥も綺麗に見られました。

● ミヤコドリカウント探鳥会

2016年1月18日(月) 開催予定でしたが、当日強風、降雪など悪天が予想されたため、探鳥会を中止しました。

● 両ケ池探鳥会

2016年1月23日(土) 10:00～12:00

いなべ市大安町石樽東 両ケ池公園

安藤宣朗 参加者7名(会員6名)

オカヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ケリ、コチドリ、コアオアシシギ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、コイカル、ホオジロ 計29種

前日からの寒波のせいか参加者7名で若干寂しい探鳥会となった。

両ケ池の上池は水抜きされていて干し上がっており、下池の方へカモたちが移動していて、いつも近くで見られるのに今日は遠かった。お目当てのミコアイサ雄雌をはじめ、ハシビロガモなど7種類のカモたちが見られたのと、20羽程のイカルの群れの中に1羽のコイルカがいて、何回も地面に降りたり枝に止まったりで、存分に観察出来たのは大収穫であった。今日は29種を観察した

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年1月24日(日) 9:00～11:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者17名(会員10名)

オカヨシガモ(30)、マガモ(7)、カルガモ(43)、ハ

シビロガモ(35)、コガモ(40)、ホシハジロ(15)、キンクロハジロ(8)、カイツブリ(3)、カンムリカイツブリ(3)、キジバト(6)、カワウ(20)、アオサギ(1)、ダイサギ(2)、オオバン(5)、タゲリ(4)、ケリ(3)、イカルチドリ(1)、イソシギ(3)、カモメ(1)、ミサゴ(4)、チュウヒ(1)、ハイイロチュウヒ(1)、チョウゲンボウ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(2)、ヒヨドリ(10)、メジロ(4)、ムクドリ(150)、シロハラ(1)、ツグミ(20)、ジョウビタキ(1)、スズメ(200)、ハクセキレイ(10)、セグロセキレイ(7)、タヒバリ(2)、ホオジロ(15)、アオジ(1)、オオジュリン(2)、カワラバト(10) 計41種

強い寒波の日の探鳥会になりました。幸いにも空には雲がほとんどなく快晴でした。風が強くて気温も低くとても寒いので、堤防上から観察するのではなく、のり面から顔を出して観察しました。少し早く終了しましたが、それでも41種観察できました。

● 大淀海岸探鳥会

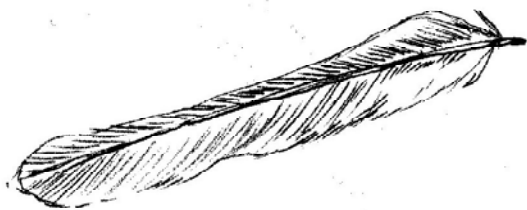
2016年1月24日(日) 9:30～11:30

多気郡明和町 大淀海岸

中村悦子 岡本忠佳 参加者8名(会員7名)
ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、シロチドリ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、カワラバト 計31種

暖冬が続いていましたが、この日は厳冬となり、寒さと強風に耐えながらの探鳥会でした。

消波ブロックで休んでいるカワウが少なめででしたし、期待していたワシカモメ、シロカモメ、ヒメウに会えず残念でしたが、漁港内にハジロカイツブリがいたのと、小突堤にスズガモの大群を見ることができたのが幸いでした。



ツグミ尾羽

編集後記

今回は原稿がたくさんの方から寄せられた。さらに、野鳥記録も満載である。ナベヅルやユキホオジロなど嬉しい情報が飛び交っていた。

編集に慣れて来たとはいえ、毎回迷う所は多い。ページ数を4の倍数にする。これも原稿が集まらないことには予測もできない。原稿が集まり、それをとにかく紙面に突っ込んでみて、さあいくらになったか。それから、四苦八苦することになる。今回は24ページにしたので、多少余裕があった。かといって、野鳥記録の写真を関係もない記事の場所に折り込むこともできない。4の倍数に収まってほっと一息である。

記事を書いてくれた人が多くなると、それぞれの書き方の違いも気になる。ある人は段落を非常に短くする。長くとる人もある。これまでも、段落の長さは文意を考えながら、編集部で加減させてもらった。むろん、段落、改行にこだわる人もある。今後どのような基準で編集すべきか論点であろう。

野鳥記録の写真の掲載は編集部で適宜判断した。ここでは芸術写真ではなく、識別に必要な情報として扱った。すなわち、普段目にする事の少ない鳥の写真を優先した。現在は1報告で1枚の掲載であるが、本来は識別に必要ななら、2枚でも3枚でも掲載すべきであろう。今後の検討課題である。

編集に協力してくれる人があればと毎回思う。ある程度コンピューターが使えて、かつ時間に余裕ある人、これが中々見つからない。この国の余裕の無さゆえか。(M. H.)

しろちどり 87号

2016年3月5日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：小坂里香

カット：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

印刷：株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市

森本町野田 3-1